

【介護から自分を知る⑭】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

(3) 個別対応—認知症

④ 認知症に対する日頃の介護について

現在介護を行なっている人が危険信号を送っているように感じた時は、その置かれている状態を的確に把握することから始まります。ただし、緊急を要する状況の時は、介護者を説得し、ショートステイを利用するようにしてください。その利用期間中に計画を検討する状況に持っていくことが必要です。

介護者が冷静に判断できる状態まで持っていくために、何をどうすれば良いのかを複数の人で検討し、客観的な判断をし、行動をすることが求められています。

利用者と介護者の関係がどうなっているのか、どうして切迫した状況になってしまったのかなどを明らかにする必要があります。利用者、介護者の人権を尊重し対応方法を求めていくこととなります。

今の状態は、止むを得ないことでなってしまったのか、それとも予想外の特別な変化で問題化してしまったのかなどが考えられます。今までに説明した内容で事前に計画を立てている場合は、その修正で対応が出来ますが、ほとんどの場合は計画を作成していないのが現実です。その時点、時点で対応をすることが一般的です、そのような対応に慣れていないのも現実ですし、一般的な話と現実とは異なり理由なしに介護者の肩にかかってきます。

予想と現実のギャップが大きければ大きいほど頭を悩ますこととなりますし、何とかなるさでは事は進みません。また、現実の問題を大きく捉えてしまうことが多いし、その対処の方法も長期化することを予想しないこともあるようです。

利用者の尊厳は大切ですが、介護者の生きる権利を奪ってしまうことがないように考えなければなりません。そのためにも役割分担とサービスの内容が大切になります。介護者のこころの問題についても十分配慮したものが必要であり、そのことを無視すると後で問題が発生することとなります。

ある程度の割り切りも必要な場合が現実にはあります。責任感だけではことは進みません、利用者の状態と介護者などの環境を明確にし、ベターな方法を模索することが一番だと思います。そのためにも情報と意見交換が大切ですし、その中での専門家の位置づけも重要になってきます。

長期戦でものごとを捉えた上で計画を立て、現実をはっきり見、変化を感じることから始めてください。無理をした介護は誰もが望んでいないもので

すし、それぞれの生活がありますから、大切な時間を有効に活用することです。